
遅れてきたサンタクロース

と～る

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

遅れてきたサンタクロース

【Nコード】

N6239G

【作者名】

とろる

【あらすじ】

大盗賊のカンダタは自分の死を目前に、不安と恐怖をなんとかしようと試みます。何をしようと救われない彼は、すべての溜め込んだ宝を使いきる事にしました。

「大盗賊といえばカンドタ」

町の人は常にそう噂していました。

事実、カンドタは大の悪党で盗みはもちろん、詐欺や恐喝とあらゆる犯罪をしていました。しかも目につく人なら女の人だろうと老年寄りだろうと関係ありません。自分が欲しいと思えば、誰からでも盗んだのです。「カンドタは恐ろしい恐ろしい」そう言って人々はカンドタを避け、彼のことを悪く言っていました。そして当のカンドタは、人々が自分の事を悪く言っているのを聞くと、無性にムシクシヤしてしまい更に悪さをするのでした。

しかし、そんなカンドタも年をとりました。彼の部屋にはたくさんのお金や宝石、素晴らしい絵画で満たされており、今にも零れ落ちそうです。ですが、カンドタは言いようのない不安と恐怖で怯えています。

「ああ、この俺の宝は、俺が死んでしまった後はどうなるんだろう。俺の一生をかけて、人から奪い、騙し取ってきた宝は」

そうです。カンドタは自分の寿命がそんなに残されていない事に気づいたのです。

「この宝は天国に持っていくことができるのだろうか」

カンドタはそう言ったかと思うと突然笑いはじめました。

「何を言っているんだ！散々人から盗み、散々嘘をついてだましてきたというのに、天国にいけると思っているのか。神様は俺を許したりはしないだろう。そうだ、俺は地獄に落ちるんだ。地獄に宝を持って行ってなんになる。きっと悪魔に取られてしまうに決まっている。それなら、生きている間にすべて使ってしまったおう」

その日からカンドタは、宝を次々に売り払い、王様でも飲むことが出来ない高いお酒を買い、遙か異国の地の食材を取り寄せると、世界一のシェフに最高の料理を作らせ、豪遊三昧の日々を送りまし

た。毎日、珍しいお酒を飲み、毎日、珍味を食べ続け、大盗賊でとつてもすばしっこかったカンダタもすっかりと太ってしまいました。それでも不安や恐怖はなくなることはありません。

そんなある日の事でした。

もうすぐ年が変わろうとしている晩。やはりその時もカンダタはお酒を飲んでいました。しかし、お店にあるすべてのお酒を飲んでしまい、仕方がなくカンダタが家に帰ろうと雪の中を歩いた時です。子供たちがなにやら話しているのが聞こえてきたのです。

「この貧乏人！お前の家はすごい貧乏でどうしようもないんだ！」話し声が見てみると、複数の子供が一人を囲って大きな声を出しているようです。

「貧乏で悪人のお前がいると迷惑だ！すぐに町から出て行っちゃえ！」

「貧乏の何が悪い！貧乏なだけで迷惑かけてないだろう！」

「いいや、貧乏は悪人の証拠さ！だってクリスマスの日、お前の家にサンタクロースは来なかっただろう！サンタクロースはいい子にしかプレゼントをくれないんだ。プレゼントをもらえないお前は悪い子なんだ！」

「そうだそうだ！出て行け出て行け！」

カンダタはそれを聞いて涙が出てきました。

なぜなら、自分もそうだったからです。

親が貧しく、クリスマスにプレゼントを貰った事はありませんでした。友達に、プレゼントが無いことをからかわれ、「プレゼントを貰った！」と嘘をついたこともありましたが、そして、嘘がバレた時、カンダタは「嘘をつくことはいけないことだ。神様は嘘をつくことを許してはいない。お前は悪党だ」と、大人たちから罰を受けたのです。鞭で打たれながら、本当に悪党になってやると心に誓ったのです。

そんな自分と同じ子供が目の前にいる。

この子も、自分と同じ様に生きるのだろうか。

自分と同じように盗みをし、人から罵られ、決してなくなることの無い不安と恐怖を抱えながら地獄に落ちるのだろうか。

そう思うと、やはり涙が次々と溢れてきてしまいます。

「あの子は自分だ。自分なんだ。今なら間に合うかもしれない、間に合うかもしれない」

カンダタは決心しました。

大きな袋を背負い、付け髭をし、真っ赤な服を着ました。その姿は、すっかり大きくなったお腹のお陰で、立派なサンタクロースです。鏡を見ながらカンダタは満足しました。ただ、問題はプレゼントです。本当なら、部屋一杯の宝を持って行ってあげたかったのですが、その宝は大きくなったお腹と引き換えに無くなっていました。

仕方がないのでカンダタは、急いで床に転がっているお酒のビンを集めました。次に、それを炉で溶かしガラス細工を作り始めたのです。しかし、そんなことをしたのは初めてです。当然うまくは出来ません。それでもあきらめずに彼はガラス細工を作り続けました。何日も何週間もかけ、彼はガラス細工を作り続けたのです。そして、ようやく満足できる物が出来たときは、年も明け、だいぶ日にちが経ってしまった後でした。もう雪も完全に溶け、暖かくなっていました。

カンダタは急いでガラス細工を毛布に包み、背負い袋にしまっただけの子供の家に向かいます。

大盗賊だった彼にとつて、煙突から部屋に潜り込むのはお手の物です。すると屋根に上って、ひょいっと飛び込みます。

大きな音と埃が立たないよう、静かに降り立つと、忍び足で子供部屋に入っていき、そして、ポンポンと寝ている子供の肩をたたきました。

「誰？」

「サンタだよ」

「うそっ！」

それを聞いた子供は飛び起きます！

「しいーい、大きな声を出しちゃ駄目だよ。大人が起きてしまうからね」

子供は慌てて両手で口をふさぐと、うんうんとうなずきました。

カンダタは満足そうに笑い、背負い袋から包みを取り出して子供に渡しました。

「はい、プレゼントだよ」

子供の顔は一気に輝き、抱きしめるようにプレゼントを受け取ります。

「ありがとうございます！」

大慌てで包みを空け、中から出てきたガラス細工を見て、いつその輝きやましたのです。しかし、急にその輝きは薄れてしまいました。

「どうしてこんなに遅いの？クリスマスはとっくの昔に過ぎてしまったよ？もう春になってしまったよ？」

「それはね、世界中にいい子がたくさんいたからさ。だから、一年で全員分のプレゼントが用意できなかったんだよ。仕方がないからある分だけを先に配って、足りない分を今日まで一生懸命作ったのさ」

「じゃあ、僕が悪い子だからじゃないんだね？僕はいい子なんだよね？この町にいていいんだよね？」

「当然さ！君に今日まで待ってもらったのは、君が子供たちで取り分け優れている子だったからだよ。とつてもとつてもいい子だから、遅くなっても我慢できるだろうし、許してくれるだろうとね」

「ほんと？嘘じゃない？嘘をつくのはいけないことなんだよ？嘘をついたら地獄に落ちるんだよ？」

「サンタクロースは嘘をつかないよ」

「そうだよ！そうだよね！」

子供の顔に再び輝きが戻りました。いえ、前よりももっともっと輝きました。

「さあ、もう寝なさい。それと、サンタと話したことはみんなには内緒だよ、いいね？」

「うん！」

子供がベッドに戻るのを見ると、カンダタはすぐに煙突を逆戻りして家を出て行きました。

これでまた嘘をついてしまいました。今までもたくさん悪いことをやってきたのです。どっちにしても地獄に行くのだと覚悟していました。もう、不安も恐怖ありません。

それからカンダタが死んだのはすぐの事です。

宝をすべて売りつくし、食べるものが買えなくなり、死んでしまったのです。そして、彼が次に目覚めたところは、地獄ではなく、天国でした。

カンダタは驚きました。

あれだけ悪いことをした自分が、なぜ、地獄に落ちなかつたのか？ 天使に連れられ神様の前に来ると、すぐにその理由を問いただしました。

すると神様は、

「お前は悪いことをしたけれど、最後に子供に笑顔を与えました。ですから、私はあなたを許します」

といました。

「しかし神様、俺はその時も嘘をつきました。あなたは嘘をつくことを許して許さないのではないのですか？」

「ええ、私は嘘をつくことを許しません。でもカンダタ、今回は違います。なぜならあの日は、エイプリルフルだったからです。年に一度、嘘をついてもいい日だったのですよ。あなたは気づかなかつたようですけどね」

そう言われてカンダタは、自分がガラス細工を作るのに夢中だったことを思い出しました。そして、大きな声で泣き出しました。

それからカンダタは、年に一度、エイプリルフルの日に入々に

祝福を与える天使になり、神様の下で一生懸命働き続けたのです。

おしまい

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6239g/>

遅れてきたサンタクロース

2010年10月8日15時03分発行